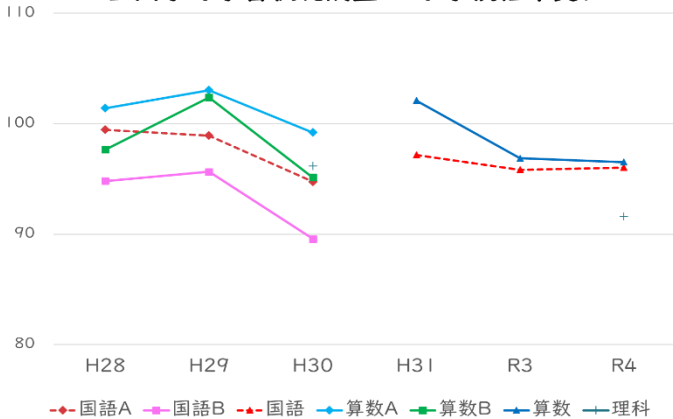


# 令和4年度 全国学力・学習状況調査の結果概要

## 学力調査《小学校》に関する結果

全国学力量習状況調査 8小学校経年変化



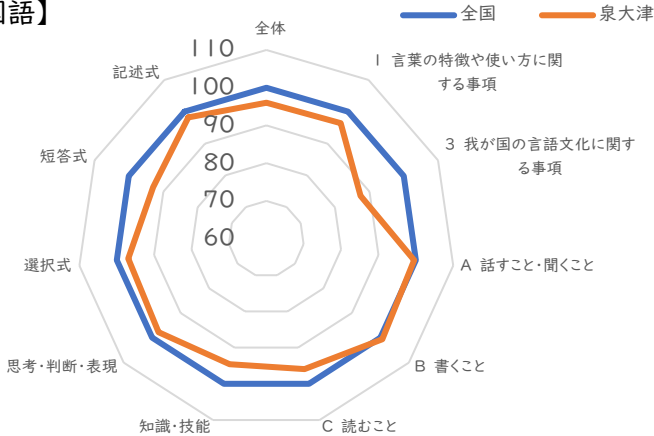
全国の正答率を100としたとき、泉大津市の平均正答率がどのような割合になるかを示し、比較しました。

国語・算数の結果は、令和3年度から、ほぼ横ばいとなっています。また、全国との差も、5ポイントとなっています。

理科の結果は、前回の平成30年度から大きくポイントを下げ、全国との差は、約8ポイントになりました。

## 各教科の状況

### 【国語】



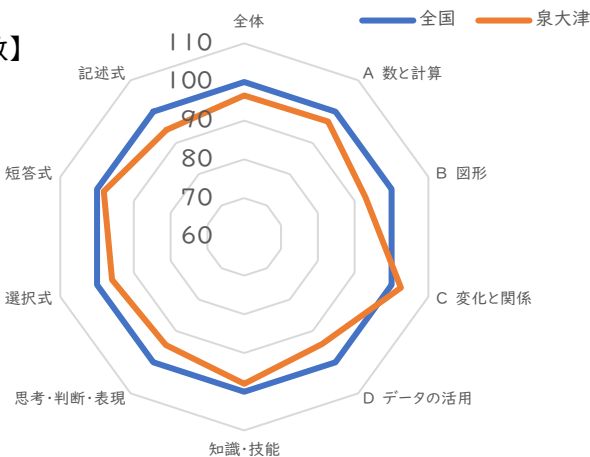
### 【領域・観点・問題形式別】

全国の平均正答率を100としたとき、各領域、観点、問題形式の正答率がどのような割合になるかを示し、比較しました。

国語は、「読むこと」「短答式」「我が国の言語文化に関する事項」が全国平均を大きく下回りました。

特に、事項別の「我が国の言語文化に関する事項」で差が大きく、言葉に関する問題、いわゆる文脈に合わせてひらがなを漢字にする問題などで課題が大きいといえます。

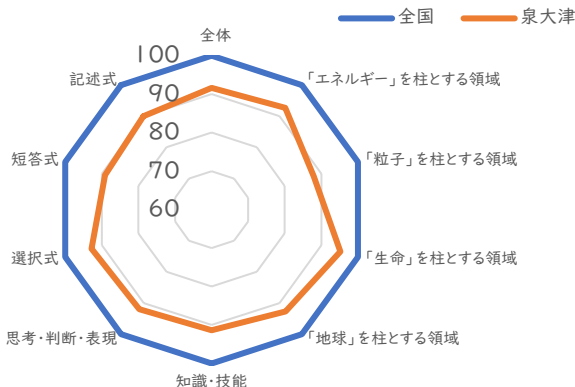
### 【算数】



算数は、領域別で見ると、「変化と関係」の問題で全国平均を上回り、「図形」「データの活用」の問題で、全国平均を下回りました。このことから、単元によって差があるということが分かります。

問題形式別で見ると、「記述式」の問題も全国平均との差が大きく、問題文に書かれた条件で、解を導くことに課題があるといえます。

### 【理科】



理科は、全体的に正答率が低く、全国平均を大きく下回りました。領域別で見ると、「粒子」を柱とする領域で全国平均から10ポイント以上下回り、課題が大きいといえます。

また、問題形式別でも「記述式」「短答式」で全国平均と約10ポイントの差があり、自然の事物・現象に対し、自分の考えをもつことに課題があるといえます。

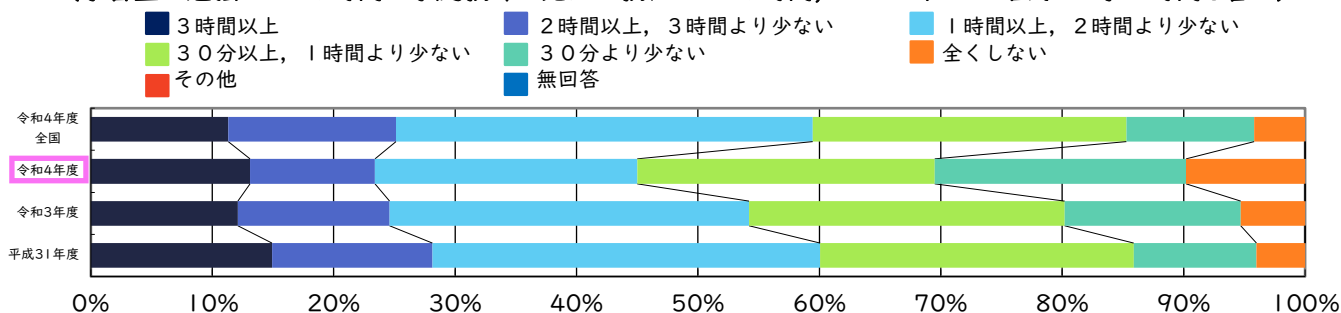
## 児童質問紙 調査結果

家庭での学習時間について、平日3時間以上学習する児童が増え、全国平均よりも上回っている一方で、全くしないとする児童も全国平均を上回り、学習習慣が二極化しています。

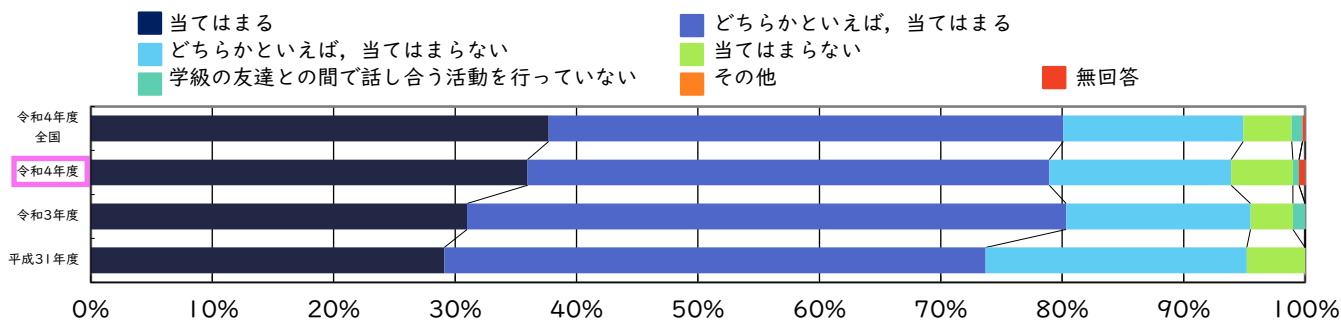
授業での学習については、主体的・対話的で深い学びに関する質問で、経年的に肯定回答が増え、改善が見られました。また、今年度の調査では、使用場面ごとに項目が分かれた ICT 機器の使用に関する質問がありましたが、どの使用場面でも全国平均を大きく上回りました。「授業中に自分で調べる場面」だけでなく、「学級の友達と意見を交換する場面」や「自分の考えをまとめ、発表する場面」でも、「ほぼ毎日」「週3回以上」「週1回以上」と回答する児童が70%を超えており、ICT 機器の活用が推進されていることが分かります。

### 《質問》学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか。

（学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間、インターネットを活用して学ぶ時間も含む）

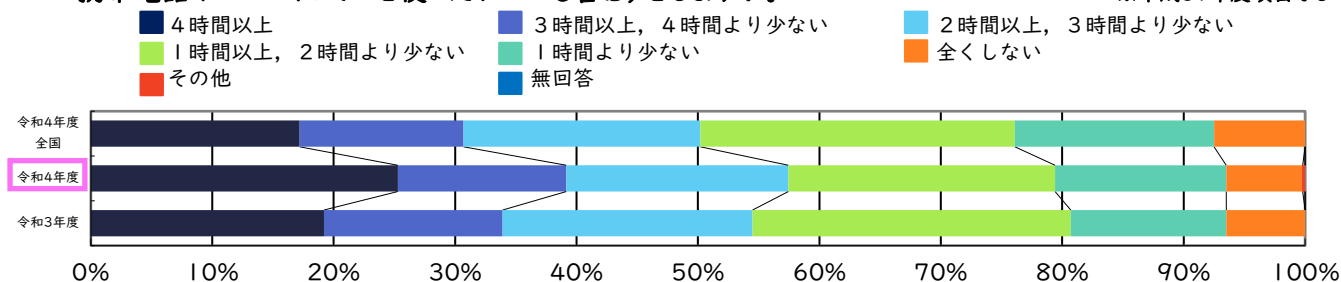


### 《質問》学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができますか。



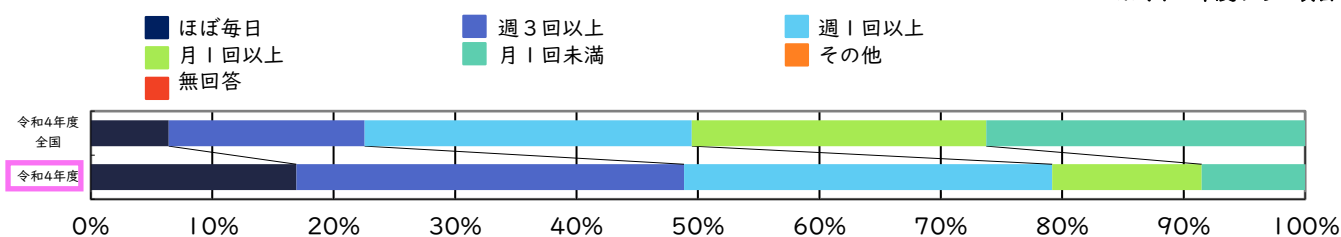
### 《質問》普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、テレビゲーム（コンピュータゲーム、携帯式のゲーム、携帯電話やスマートフォンを使ったゲームも含む）をしますか。

※平成31年度項目なし



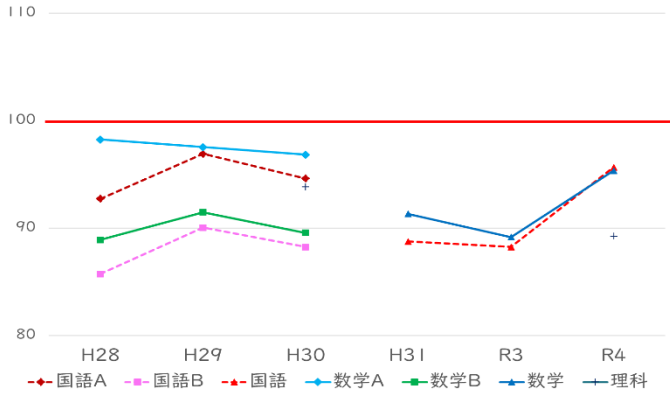
### 《質問》学校で、学級の友達と意見を交換する場面で、PC・タブレットなどの ICT 機器を、どの程度使っていますか。

※令和4年度からの項目



## 学力調査《中学校》に関する結果

### 全国学力学習状況調査 3中校経年変化



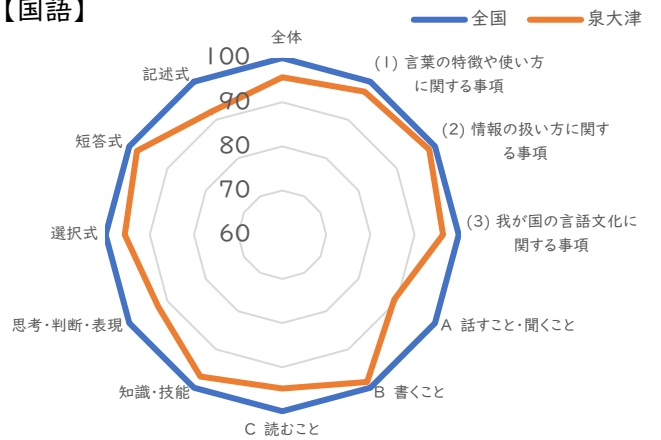
全国の正答率を100としたとき、泉大津市の平均正答率がどのような割合になるかを示し、比較しました。

国語・数学ともに、令和3年度の結果から、5ポイント以上改善し、全国平均との差も5ポイント以内となっています。

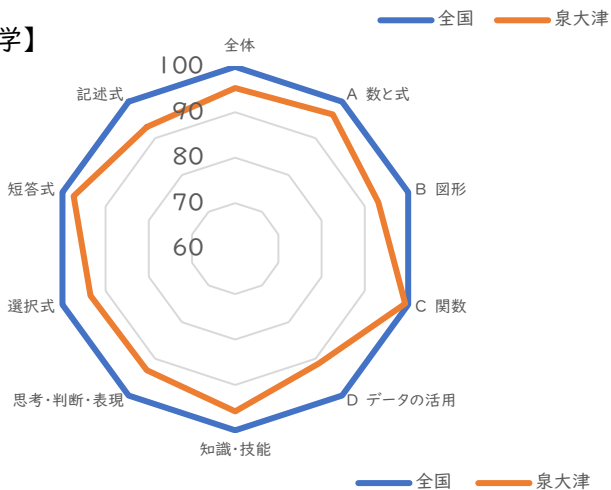
理科の結果は、前回の平成30年度からポイントを下げ、全国との差も、10ポイント以上となりました。

### 各教科の状況

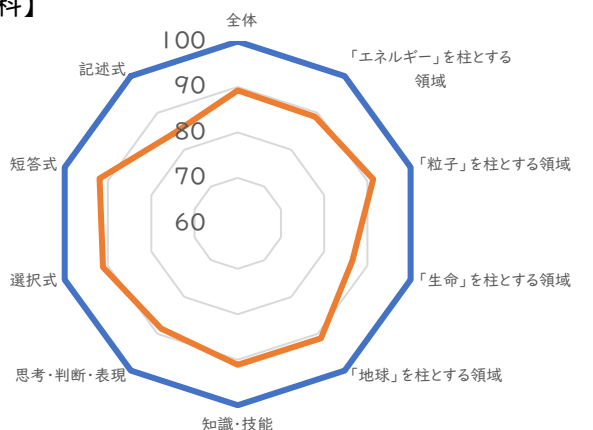
#### 【国語】



#### 【数学】



#### 【理科】



#### 【領域・観点・問題形式別】

全国の平均正答率を100としたとき、各領域、観点、問題形式の正答率がどのような割合になるかを示し、比較しました。

国語は、全体的に伸び、全国平均との差が小さくなってきましたが、領域別「話すこと・聞くこと」や問題形式別「記述式」では全国平均との差が大きく、課題となっています。

論理の展開に注意して話を聞いたり、根拠を明確にしながらか自分の考えが分かりやすく伝わる文章を書いたりすることに課題があるといえます。

数学では、領域別「図形」「データの活用」や問題形式別「記述式」で全国平均との差が大きくなっています。

ヒストグラムや箱ひげ図などから、データの特徴を読み取ったり、筋道を立てて考え、説明したりすることに課題があるといえます。

理科は、全体的に全国平均との差が大きく、どの項目も10ポイント近い差があります。特に、領域別で「生命」や「エネルギー」を柱とする領域や、問題形式別「記述式」での差は大きく、課題も大きいといえます。

理科の学びで重要な探求の方法について検討し、探求の過程について見通しを持つことや、実験・観察の結果を分析して解釈することに課題があるといえます。

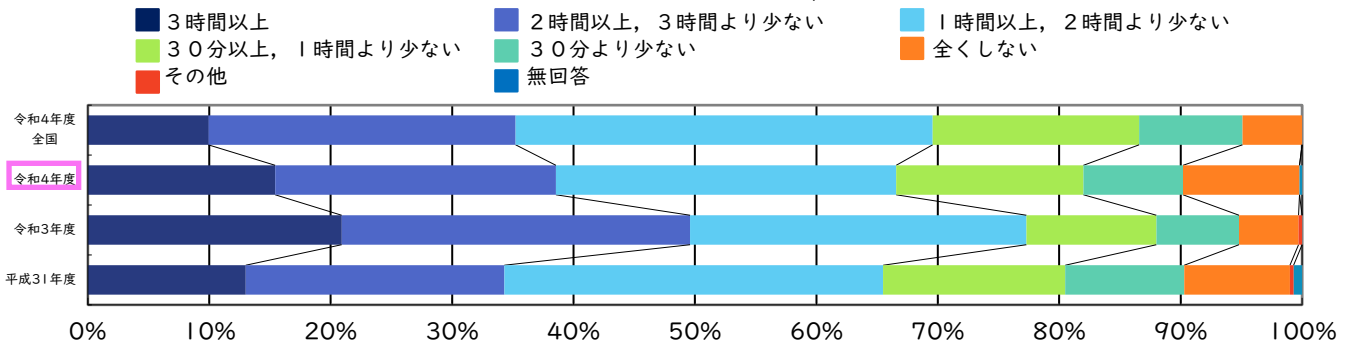
## 生徒質問紙 調査結果

家庭での学習時間について、平日2時間以上学習する生徒が全国平均よりも上回る一方で、全くしないとする生徒も全国平均を上回り、学習習慣が二極化しています。

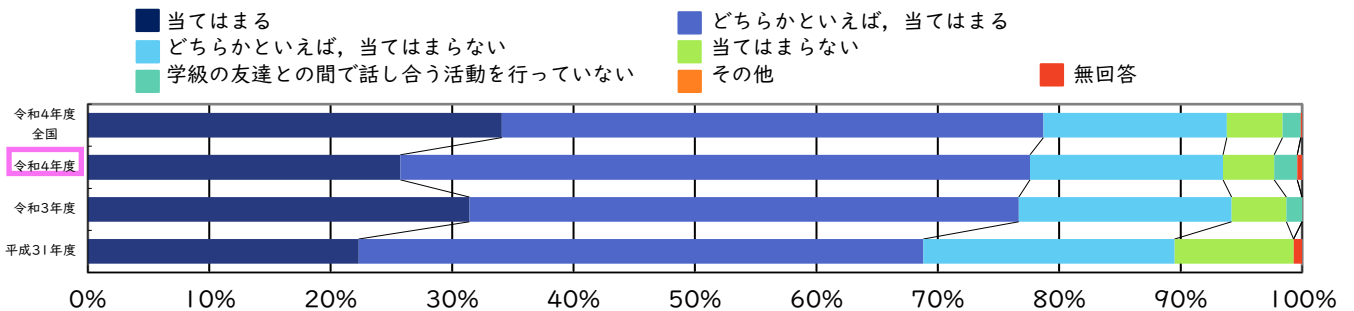
授業での学習については、主体的・対話的で深い学びに関する質問で、経年的に肯定回答が増え、改善が見られました。また、今年度の調査では、「授業中に自分で調べる場面」だけでなく、「学級の友達と意見を交換する場面」や「自分の考えをまとめ、発表する場面」といった使用場面ごとに項目が分かれた ICT 機器の使用に関する質問がありました。調査結果としましては、どの使用場面でも全国平均を大きく上回り、特に「授業中に自分で調べる場面」では、「ほぼ毎日」「週3回以上」「週1回以上」と回答する生徒が90%を超えており、ICT 機器の活用が推進されていることが分かります。

《質問》学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか。

（学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間、インターネットを活用して学ぶ時間も含む）

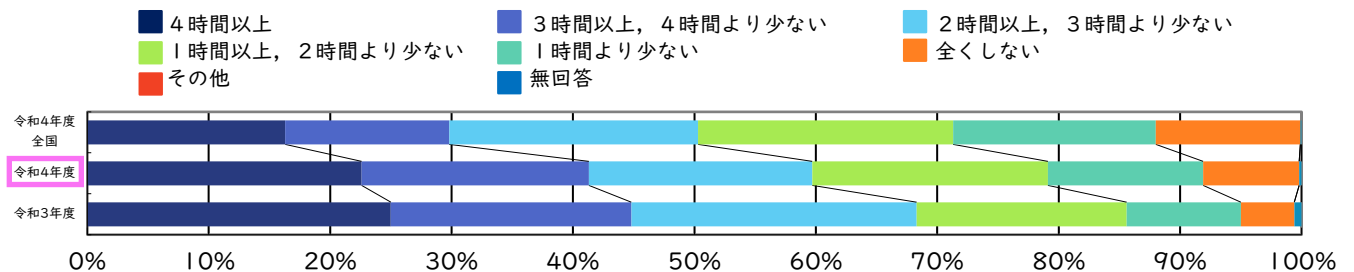


《質問》学級の生徒との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができますか。



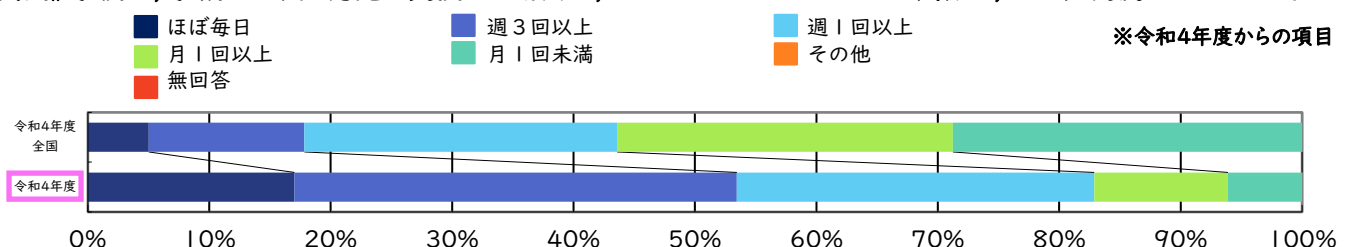
《質問》普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、テレビゲーム（コンピュータゲーム、携帯式のゲーム、携帯電話やスマートフォンを使ったゲームも含む）をしますか。

※平成31年度項目なし



《質問》学校で、学級の生徒と意見を交換する場面で、PC・タブレットなどの ICT 機器を、どの程度使っていますか。

※令和4年度からの項目





## 小学生新学力テスト(愛称:すくすくウオッチ)の結果概要

昨年度より、全国学力・学習状況調査の実施に合わせて、大阪府独自の学力テストが小学5・6年生を対象に「小学生新学力テスト(愛称:すくすくウオッチ)」として実施されました。



### 【実施内容】

5年生：国語・算数・理科・わくわく問題(教科横断型問題)・児童アンケート  
6年生：わくわく問題(教科横断型問題)・児童アンケート  
教員：教員アンケート(5・6年生の指導に関わる教員)

### 【各教科の結果:5年生】

- 国語・算数・理科の全教科で、大阪府平均を上回りました。
- 特に算数では、毎年課題とされている「記述式」の問題で、大阪府平均を上回りました。
- 国語では、基礎的な文法に関する問題が多く、言葉の特徴や使い方に関する問題や我が国の言語文化に関する問題が多く出題されました。特に、ことわざや故事成語を正しく理解する問題で課題が見られました。
- 算数では、図形領域で、理科では日常生活と関連付けて理解したり、実験結果から考察したりする問題でやや課題が見られました。

### 【わくわく問題(教科横断型問題)の結果:5・6年生】

わくわく問題は、多様な他者と協働し、探求的な学習を進め、生きる力を伸ばすために必要な力として問題が設定されています。

- 平均正答率は、大阪府平均を上回り、「図や表、グラフ、短い文章、会話文等の内容を関連付けて正しくとらえたり、論理的に考え、自分の考えをまとめて伝えたりする」問題で成果が見られました。
- 「興味・関心のある事からについて、意欲的に工夫して相手に伝える」問題で、大阪府平均をやや下回り、課題が見られました。

### 【アンケート:児童・教員】

- 教員アンケートの「児童一人ひとりのよいところを認めたり、励ましたりする言葉かけをしている」の項目や、児童アンケートの「先生は、あなたのよいところを認めてくれる」の項目で、ともに肯定的回答が増加しており、教員のはたらきかけが子どもに響いていました。
- 児童アンケートから、いろいろなことに対する興味・関心は高く、意欲的に取り組む姿勢はありますが、「最後まで興味を持ち続けるのは難しい」や「夢中になっても、しばらくするとすぐに飽きてしまう」等の結果から、興味・関心を持ち続けることは苦手だということが分かりました。

### 【授業や家庭学習における工夫】

- 学んだ知識を使うようにしましょう。主体的な学びをめざす中で、「習得」も意識しましょう。  
(基礎基本の定着)
- 根拠を考え、それをもとに考えを表現したり、自分の考えが伝わるように順序よく述べたりしましょう。(論理的に考え・表現する力の育成)
- 文章では、単語や一部の表現にとらわれず、文の全体像をつかむように読むことを心がけましょう。また、表や図、グラフは細部のことばなど、読み取ってみましょう。(読む力の育成)
- 「自分で課題を見つけ、その解決方法を模索し、結論を出す」ことにチャレンジしましょう。  
〈例：家でのお手伝いを効率的・効果的にするにはどうしたらよいか、等〉(自ら課題解決する力の育成)
- 1人1台端末を活用して、調べたり・資料を比較したり・自分の考えで整理したり・見やすい資料を作ったりしましょう。(情報活用能力の育成)